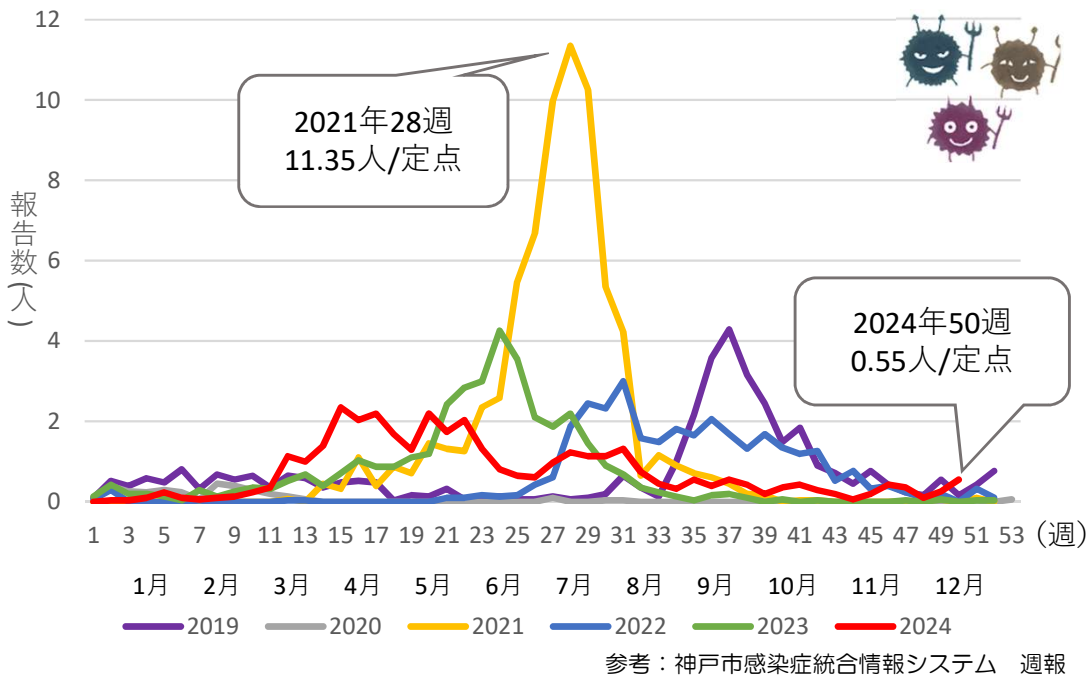


RSウイルス感染症に注意しましょう！



例年、秋から冬にかけて流行していましたが、近年は7月より報告数が増加傾向となっています。

2020年はコロナの感染対策により、RSウイルスの流行も抑えられていました。その結果、RSウイルスに対する免疫が全くない、または不十分な子どもが増加し、2021年の大流行につながったと考えられています。

RSウイルスに対する免疫が不十分な子どもが多くなると、季節にかかわらず流行する原因になると考えられています。

参考：国立感染症研究所
(2021.9.29)

RSウイルスってどんな病気？

RSウイルスの感染による呼吸器の感染症で、発症の中心は0～1歳児のため保育園等で感染拡大しています。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1度は感染すると言われています。

潜伏期間は2～8日、典型的には4～6日間の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。多くは軽症で済みますが、重くなる場合は細気管支炎や肺炎を起こします。特効薬はないので、治療は対症療法（症状を和らげる治療）になります。

感染対策

| | | |
|------|--|--|
| 接触感染 | | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが日常的に使うおもちゃや手すりの消毒 ※消毒にはアルコールや次亜塩素酸を使用 こまめな手洗い |
| 飛沫感染 | | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの周りの方で、咳などの呼吸器症状がある人のマスクの着用 |

ポイント！

乳幼児（特に乳児）や呼吸器疾患等の基礎疾患のある高齢者が発症すると重症化することがあります。咳等の呼吸器症状がある時は、マスクを着用しましょう。